

桑山川排水機場の早期完成を目指して

新潟地域振興局農林振興部

1 はじめに

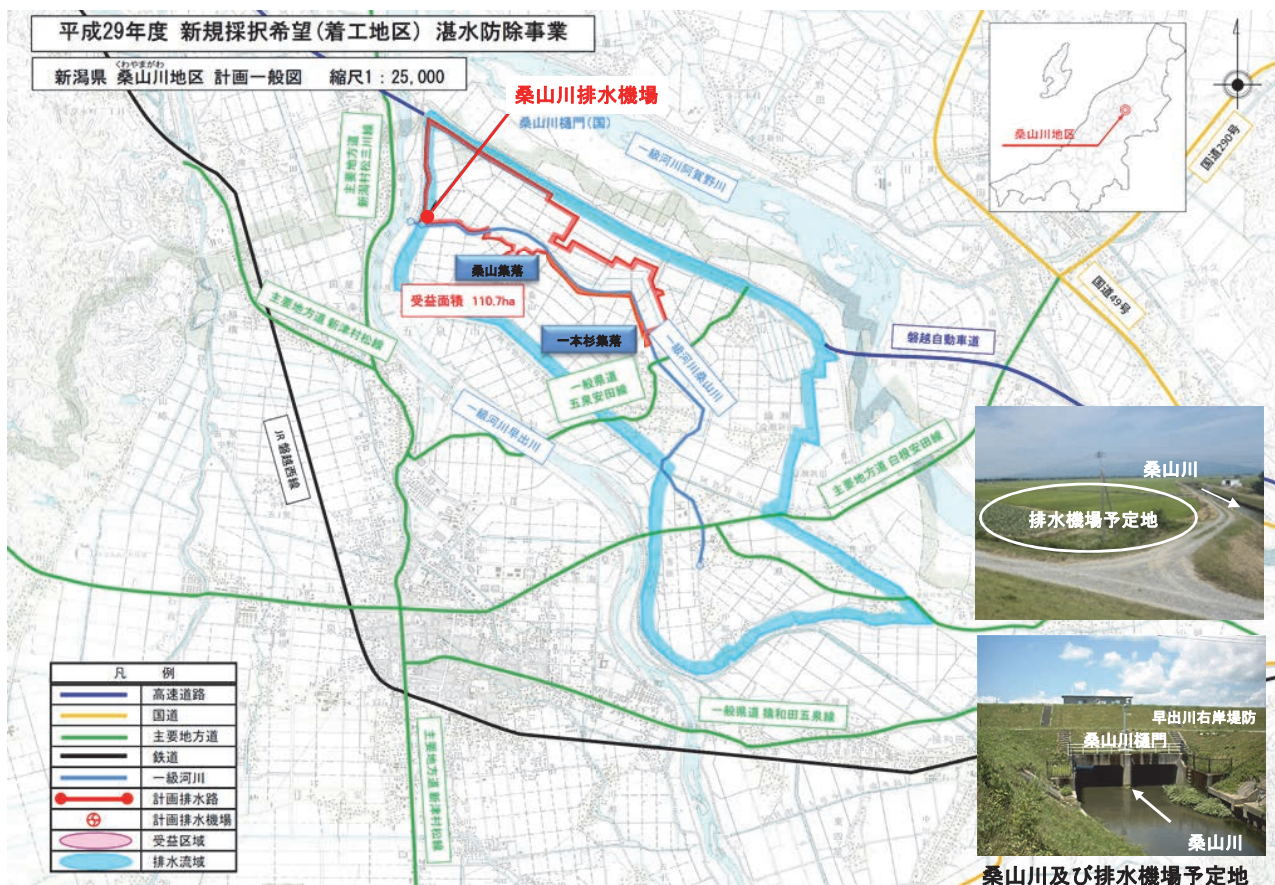
本地区は、五泉市の一級河川阿賀野川と早出川（国管理）の合流付近に位置する一級河川桑山川（県管理）の流域（A = 748ha）にあり、桑山川の早出川合流地点には桑山川樋門（国管理）が設置されています。

五泉市の桑山川流域は阿賀野川と早出川に挟まれ、河川の氾濫により堆積した砂壤土が広がっています。この土壌は水はけが良く、水稲の他にサトイモ等の根菜やチューリップ等の花き・球根の栽培が盛んに行われています。

2 地区概要

事業名：県営湛水防除事業
地区名：桑山川地区
受益面積：110.7ha
事業採択：平成29年度
総事業費：998,000千円

主要工事：排水機場工 N = 1ヶ所
（排水ポンプφ1000mm×2.3m³/s×2台）
（吐出水槽工、吸水槽工、導水路工、排水樋管工）
排水樋門工 N = 1ヶ所
（樋門部、水槽部、水門部、取付護岸工）



3 排水施設整備の状況

この地域は、毎年数回にわたり湛水の被害を受けていたことから、昭和37年8月に国直轄の堤防工事が着工し、巻き込み堤防の築堤と早出川からの逆流を防止するための旧桑山川樋門の設置（ポンプ未設置）などを行い昭和40年11月に竣工し、翌年には桑山川が一級河川に指定されました。

しかしながら、旧桑山川樋門の門扉を閉じると桑山川周辺一帯が湛水し、農作物に被害を及ぼすことが年に数回発生する事態が生じるようになり、昭和46年～昭和63年までの間に県営かんがい排水事業阿賀野川左岸地区による桑山川の改修（河川法20条工事）を行い、昭和63年に国事業の早出川改修時に現堤防と現樋門が建設され現在に至っています。

4 湛水被害の要因

本地域では、阿賀野川の洪水時に本川からの背水により早出川から桑山川へ逆流が発生した場合に、桑山川樋門ゲートを閉鎖してこの地域の農地等を湛水の被害から防いできたところですが、近年頻発している集中豪雨の影響により、平成16年、18年、23年（新潟福島豪雨）に洪水時のゲート閉鎖により湛水被害が発生しており、桑山川流域内の宅地開発などによる排水流出量の増加も湛水被害を大きくしています。令和元年の6月30日、10月13日（台風19号）においてもゲートが閉鎖され湛水被害が発生しています。

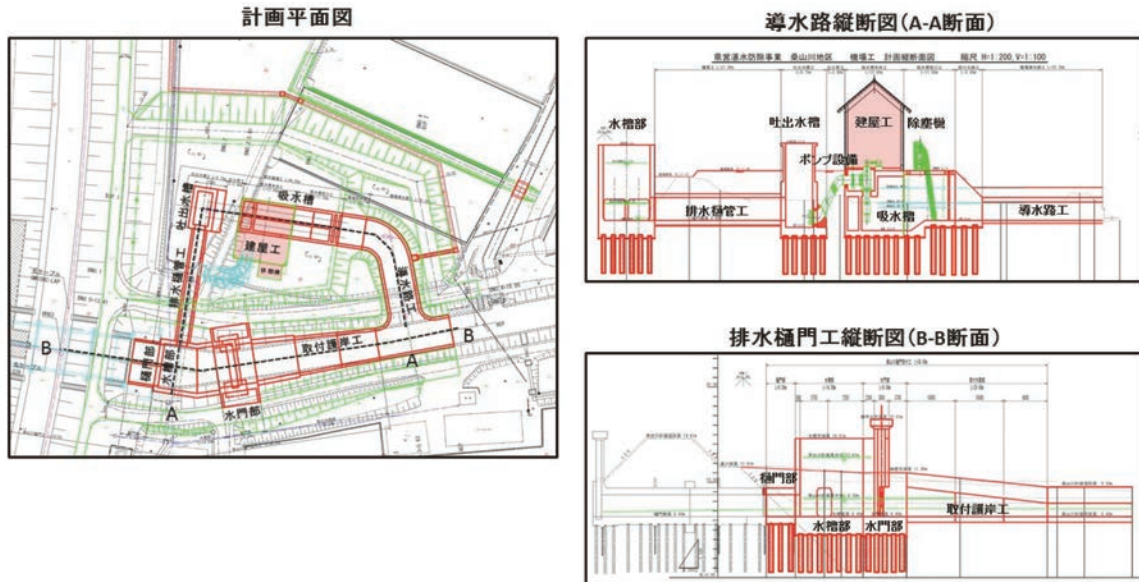


湛水状況写真



5 排水施設整備計画

吸水槽に洪水を導く導水路工、洪水を吐き出す吐出水槽、排水樋管工を新設します。また、排水ポンプ（φ1000mm×2.3m³/s×2台）、建屋を新設します。排水樋門工（樋門部、水槽部、水門部、取付護岸工）は桑山川の河川内に造成し、既設の排水樋門に接続します。令和4年度の完成を計画しています。



6 工事の進捗状況

平成29年度の事業採択以降、早出川（国管理）と桑山川（県管理）の河川管理者と河川協議を継続していますが、河川法の申請は令和元年10月に一部許可となっています。令和元年度は早出川堤防から作業ヤードに進入するための仮設坂路工、作業ヤード工及び吸水槽の造成工事（第1次工事、第2次工事）を実施します。

7 おわりに

前述のとおり本地域は、昔から常に洪水との戦いの歴史を有する地域でした。特に羽下地先の阿賀、早出の合流点で長い間の無堤防時代には、毎年数回にわたり湛水の被害を受け、中でも昭和28年、同年33年の大洪水は、地域の農作物を殆ど全滅に追い込み、また、桑山、一本杉集落十数戸が床上浸水の被害を受けました。

災害の記憶を後世に伝えるため、桑山川上流には大洪水の被害を物語る記念碑が建立されました。また、平成22年度に地域の自治会が主体となり、桑山川排水機場設置の早期実現を図るべく、桑山川排水機場設置促進期成同盟会を発足し、これまで熱心に活動され、ようやく実を結んだ事業であり、一日も早い事業効果の発現を目指し、事業推進していきます。

桑山川上流に建立された記念碑
(平成元年4月建立)

